

平成30年度 国分寺市障害者基幹相談支援センター事業実績

事業全体を振り返って

平成30年度、基幹は、職員1名が増員され5名体制となった。それに伴い、国分寺市の委託事業として、これまでの業務の他、新たに以下のような13の取組が加わった。初めての取組のため、全ての目標を達成できるか不安な船出ではあったが、全ての業務を期間内に終了させ、予算も予定通りの執行を行うことができた。

平成30年度の事業の取組内容

(1) 新たな取組の概要

取組内容	到達状況	課題・今後
1) 相談支援事業所訪問	相談支援事業所7件の訪問を、4月から始め、11月で終了した。各事業所のサービス等利用計画の確認と相談支援専門員が抱えている地域課題の聞き取りを行った。 10月に新たに相談支援事業所が1ヶ所立ち上がり、3月に訪問し、市内の全事業所訪問を完了した。	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に訪問が行えるように早めに事業所に提案し日程調整する。 ・ケース確認でSVや勉強会に繋げる聞き取り、地域課題の聞き取りを研修会・自立支援協議会での検討に繋げる。
2) 専門家による個別SVの実施 (12時間)	専門相談として、相談支援専門員の抱える困難事例についてのSVを新たに行った。相談支援事業所訪問での聞き取りがケースの抽出に役だった。また、基幹職員のスキルアップとして参加した研修会で出会った講師にSVの依頼し、ケースに合った専門家を見つけることができた。基幹職員一人ひとりが自らの知識を増やすだけでなく、他職種・他機関の専門家と繋がるようとする意識を持って研修会に参加することを心がけてきた成果と言える。	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援専門員の悩みを解決するためのSVであるが、ケースに関わる関係者も巻き込んでSVを実施できるように働き掛け、その繋がりや、地域のネットワークの強化を図る。 ・ケースに適した専門家へのSVの依頼。 ・SVは、管理的機能と教育的機能と支持的機能があり、施設・機関の責任者が職員に対し行うもので遂行責任を負う。現状は、他分野の専門家との相談・協議・指導を受けるコンサルテーションとなっている。名称変更を市に提案する。
3) 相談支援専門員新任向け研修の実施	相談支援専門員になって1～3年目の人を主な対象者とし、各事業所1名以上の参加を募った。障害福祉課・子ども家庭支援センター・権利擁護センター・民間の社会資源等、相談支援を行う際の国分寺市の基礎的な福祉情報を共有した。	次年度は3年以下の相談支援専門員の人数が少ないため、ベテランの相談支援専門員が参加しても充実するよう相談に関わる知識や技術のブラッシュアップ研修を目指す。
4) 支援者向け研修会の実施	市の要請で市民向け講演会に変わり、12月6日支援者向け研修会をcocobunjiプラザで開催した。参加者66名。万葉の里の虐待防止研修としても活用した。虐待防止・権利擁護・意思決定支援を主なテーマとして、障害福祉関係者のみならず	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も障害福祉だけでなく、教育・高齢分野にも周知する。

	らず、初めて教育・高齢分野と広い範囲で周知しネットワークの拡大を図った。	
5) 障害児通所支援事業所懇談会の運営協力	市から障害児支援事業のネットワークの構築のための、障害児通所支援事業所連絡会の立ち上げの依頼があった。その準備段階として、市が主となり懇談会の開催を行うことになり、基幹も運営協力をした。相談支援部会、全体会で懇談会の開催が報告され、来年度は正式に連絡会として立ち上がることになる。	・連絡会として立ち上がったところで基幹相談支援センターが事務局として加わり、市と連携して運営していく。
6) 障害児ネットワーク研修の実施	地域移行・介護保険のネットワーク研修に加え、障害児ネットワーク研修を新たに開催した。放課後等デイサービス事業・児童発達支援事業・保育園・幼稚園・学校等の児童に関わる関係者に広く呼び掛け、(園長会に出席し研修案内等) 顔の見える関係を作る第一歩の研修会を開催した。	・国分寺市子ども子育て事業課とも連携し、顔の見える関係を障害児関係者の中に作っていく。
7) 協議会 全体会(全文)・三部会(要点)の議事録作成	協議会の記録業務が市から基幹に移った。全体会・部会共にテープ反訳依頼し、全体会は全文記録、部会は要点記録として作成した。全文記録は、テープ反訳を基に誤字脱字、不明部分を修正したものを市・各委員に確認依頼し作成した。	記録に関して、メールでの確認は取れない。個人情報、基幹で扱えないため、必ず市を通して個人として参加している委員には確認を依頼する。
8) 相談支援事業所連絡会の運営	相談支援部会で検討され、相談支援事業所連絡会が立ち上がった。これまで5月に計画相談ワーキンググループとして集っていたものを正式に、相談支援部会の下部組織として連絡会として位置づけた。国分寺市からの情報提供・相談支援専門員同士の情報交換・研修・勉強会・ケース検討等、相談支援専門員を様々にバックアップする取組を企画から記録までの全てを基幹相談支援センターが行うことになった。 月1回実施した。(11回)	各月の内容は連絡会の中でも検討するが、勉強会や研修等は、基幹で計画的に提案し、実施する。
9) 就労支援部会の運営	就労支援部会には、基幹相談支援センターとしては関わってこなかったが、平成30年度から事務局として市と連携して関わることになった。主任と職員1名が事務局打合せ・部会の参加・議事録の作成に当たり、医療機関と就労支援機関との意見交換会にも打合せから参加した。	・引き続き主任と職員1名で事務局として関わり、議事録(要点記録)を作成する。
10) 精神保健福祉部会の運営	精神保健福祉部会には、センター長が副部会長として参加してきたが、さらに事務局として、職員2名が加わった。事務局打合せ・部会の参加・議事録作成に当たった。	・引き続き副部会長と事務局(職員2名)を担当する。議事録は、要点記録で作成する。 ・緊急入所保護事業に該当しない緊急度の高いケースの検討を行う。
11) 協議会ニューズレタ	ニューズレターは、市と基幹で手分けして郵送・	個人に配布するものは梱包までを基幹

一の配布手配	交換便・会議等で手配りしていたが、全ての配布先への振り分けと送付案内・宛名作成・梱包を基幹が行うことになった。配達の一部を KOCO・ジャムこの葉に利用者の作業として第3号から依頼した。配布に当たって、協議会とニューズレターの説明マニュアルを作成し、提供した。	相談支援センターで行い、その先は市に依頼する。
12) 緊急度の高いケースへの家庭訪問	相談支援事業所連絡会・相談支援部会・全体会で検討され、相談支援専門員が上げた緊急度の高い家庭約100件を更に選別し、最重度35件から相談支援専門員が行う訪問に合わせて市と基幹が同行し現状把握を行い、併せて緊急入所保護事業の説明を行う取組を開始した。把握した情報は、市と基幹で情報共有している。	<ul style="list-style-type: none"> ・35件達成まで、市と訪問する。 ・35件以外にも緊急度の高いケースが出た場合、訪問の対象とする。
13) 24時間365日緊急入所保護事業の相談受付	10月から家庭訪問が始まり、それに伴い緊急用携帯を基幹センター長・KOCO・ジャム管理者・障害者センター管理者・万葉の里事務長とで1週間ごとに交代で持ち、夜間の緊急の場合に対応することになった。電話対応のマニュアルは作成済み。緊急入所保護事業対象と判断された場合、誰が携帯を所持していたとしても基幹センター長にも連絡が入ることになっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問し状況把握したケースの緊急連絡先の携帯登録と自宅近辺の地図を用意し基本情報と共にファイリングする。 ・緊急事態発生の経験を蓄積し、マニュアルの改善と対応策の充実を図る。

(2) 継続事業の状況

個別業務名	目標に対する到達状況	課題・今後の方向
スキルアップ研修等の企画・開催	<p>①スキルアップ研修 事例勉強会 事例を相談支援事業所に出していただくことにこれまで大変苦労してきたが、今年度は事業所訪問をした時に聞き取ったことが役に立った。</p> <p>②ネットワーク研修（地域移行） 東京都から君島淳子氏を招いて東京都における地域移行の取組の変遷について講演頂き、障害・医療・高齢・行政等の関係者が集まり、成功事例の発表を通して明日から支援できる方法をグループワークした。</p> <p>③ネットワーク研修（介護保険） ケアマネ連絡会と共催研修2年目。障害、高齢分野の共通の課題を検討し80-50問題にテーマを決めた。基幹から東洋大学元教授の白石弘巳医師に講演を依頼した。ケアマネと相談支援専門員の人数に圧倒的な差があり、研修内容の工夫が必要だった。</p> <p>④相談員のためのワークショップ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・聴き取り等を通し、勉強会に挙げる事例を見出していく。 ・地域移行研修は、はらからの家福社会が行う北多摩西圏域の研修と連携して令和元年度は企画する。 ・引き続きケアマネ連絡会と連携研修として行うが、予算・企画共に基幹が主導になると予想される。今後の開催方法について検討が必要。

	<p>相談支援事業所連絡会の中で、ミニ研修を行った。ストレスマネジメント士によるメンタルヘルス研修で、自分の傾向性を知り、自分らしさを活かす仕事について学んだ。</p>	<p>・今後も相談支援事業所連絡会の中でもミニ研修を企画する。</p>
<p>国分寺市障害者地域自立支援協議会</p>	<p>①全体会 相談支援部会、就労支援部会、精神保健福祉部会の活動報告が行われるが、報告会に終始する傾向にあった。会長との打合せを綿密に行い、各分野から出席する委員に意見や補足的な助言をしていただく働きかけを行い、活性化を図った。 個人として参加している方の議事録のやりとりで行き違いが発生する等、難しさがあつた。</p> <p>②相談支援部会 予定通り4回開催。前半は、相談の事務的な軽減を図り、質をあげるためのツール作成について検討され、後半は24時間365日の緊急時対応について部会、連絡会で検討された。</p> <p>③ツールワーキンググループ 活用できるツール作りのためのグループとして相談支援事業所を中心に立ち上げた。サービスの入り口は子どもが多いため、児童関係者が活用できる『こどもあんしん相談ナビ』を検討し、基幹が編集、作成した。平成31年3月発行 2,000部作成</p> <p>④計画相談ワーキンググループ 計画相談に係る事務的な軽減を図るためのグループとして行政、相談支援事業所で立ちあげた。基本情報票、計画(案)、計画、モニタリング票の国分寺市書式を検討し、基幹が編集、作成した。また、モニタリングに係る手間を軽減するためにモニタリング終了証の活用が決まり、市が書式を作成し活用され始めた。</p> <p>⑤協議会ニューズレター 第3回、第4回を予定通り発行した。各3500部 委員の紹介は、ほぼ終了した。巻頭言は、第1号の会長から始まり、基幹の研修で講演して頂いた講師がまちづくりについて、受け継ぐ連載が定着してきた。 市内の施設が作っているお弁当等を取材してランチ特集や、市政戦略室と連携し、こくベジ特集をした。</p>	<p>・全体会の進行をスムーズにするために、会長との打合せには、委員として参加するセンター長が必ず参加する。</p> <p>・個人情報や基幹は扱えないので、個人として参加している委員は市からの連絡を厳守する。</p> <p>・計画相談ワーキング・ツールワーキング共に成果物を残し、当初の目的は達成し終了となった。</p>
<p>専門性の獲得</p>	<p>① ルーテル学院大学 福山先生コンサルテーション 年4回×2h 基幹職員のスキルアップのため支援に行き詰る事例のコンサルテーションを受けた。基幹に来る関係者の相談に課題の整理やスーパーバイズができるようになってきた。</p> <p>②高次脳・発達障害関係機関連絡会、地域活動支援センターつばさ主催の連絡会に必ず職員1名以上が参加した。知識・技術の習得の他、国分寺市の各分野の関係者が集まる機会のため、情報交換や顔の見える関係作りを意識した。</p>	<p>・各職員が自分の知識、技術の拙さを知り、常に学ぶ姿勢を失わない努力が必要。</p> <p>・職員全員が1回以上、参加し関係者と顔の見える関係を築き、基幹に相談に来ていただき易い環境を作っていく。</p>

平成 30 年度基 幹連絡 会	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回6月25日 練馬区で開催 24時間365日相談支援体制等について情報交換 ・第2回11月1日 三鷹市で開催 地域生活支援拠点等について情報交換 ・第3回2月25日 国分寺市で開催 地域生活支援拠点の進捗状況等について情報交換 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も3回目（2月頃）の連絡会で 国分寺市の取組として実践研究の発表 を行う。
--------------------------	--	---

(3) 活動実績

平成30年度相談業務実績（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

相談支援件数	3,609件	相談業務内容件数	4,653件
--------	--------	----------	--------

① 相談業務の支援方法別件数

	訪問	来所 相談	同行	電話等 相談	電子 メール	個別支 援会議	関係 機関	その他	計
個別相談	54	46	9	430	12	25	1231	0	1,807
関係機関	206	120	0	683	793	0	0	0	1,802
件数	260	166	9	1113	805	25	1231	0	3,609

② 相談支援内容の内訳（相談支援内容をその内容別に分類した件数）

	福祉 サー ビス の利 用等 に関 する	障害 や病 状の 理解 に関 する 支援	健康・ 医療 に関 する 支援	不安 の解 消・情 緒安 定に 関す る支 援	保育・ 教育 に関 する 支援	家族 関係・ 人間 関係 に関 する 支援	家計・ 経済 に関 する 支援	生活 技術 に関 する 支援	就労 に関 する 支援	社会 参 加・余 暇活 動に 関す る支 援	権利 擁護 に関 する 支援	そ の 他	計
個別 相談	1179	173	298	290	9	329	119	183	105	11	124	10	2,830
関係 機関	1531	6	5	21	0	2	1	1	3	0	26	227	1,823
件数	2710	179	303	311	9	331	120	184	108	11	150	237	4,653

③ 相談支援件数の業務別件数（支援の内容を基幹相談支援センター業務に則して分類した）

	総合相談 専門相談	ネットワ ーク 研修等	地域移行 地域定着	虐待防止 権利擁護	計
個別相談	1,607	163	21	16	1,807

関係機関	57	1,736	1	8	1,802
件数	1,664	1,899	22	24	3,609

④ 月別相談件数

	新規受付数	新規対象者数	終結件数	継続相談件数
引継数 (H30.3)	—	—	—	17
4月	6	2	1	18
5月	8	0	0	18
6月	7	0	1	17
7月	8	0	0	17
8月	12	1	2	16
9月	7	0	3	13
10月	16	1	0	14
11月	11	0	0	14
12月	7	0	0	14
1月	6	0	0	14
2月	9	0	0	14
3月	6	0	0	14
合計	103	4	7	14

⑤ 地域の相談支援事業者の研修等

月	日	研修名(概要)	講師	周知対象者	備考
5	16	スキルアップ研修Ⅰ(地域移行) 地域移行 in 国分寺 私たちにできる具体的行動 ① 講演「精神障害の地域移行支援に係る東京都の取組の変遷について」 ② 精神保健福祉部会報告「地域移行促進について」 ③ 会場からの現状報告 ・精神科病院 ・精神科医療地域連携事業 ・行政からの報告 ・地域包括支援センター 認知症地域支援推進員 ・高齢者見守り相談窓口 ④ 地域移行好事例報告 ⑤ グループワーク	① 東京都立多摩総合精神保健福祉センター 地域体制整備担当 君島 淳子氏 ② はらからの家福祉会 総合施設長 伊澤 雄一氏	・相談支援事業者 ・精神科病院 ・体制整備支援事業者 ・地域包括支援センター ・障害福祉サービス事業者 ・行政	相談支援事業者 3/7 事業所(9人) 精神科病院 3病院(4人) 地域包括支援センター 5/6 事業所(7人) 行政 保健所 生活福祉課 障害福祉課 (10人参加)

6	14	<p>スキルアップ研修(新任研修)</p> <p>① 基幹の機能・業務内容</p> <p>② 障害福祉課の業務内容</p> <p>③ 児童虐待への取組</p> <p>④ 社会福祉協議会の事業内容と支援連携</p> <p>⑤ 地域の社会資源</p>	<p>① 基幹センター長 銀川 紀子</p> <p>② 障害福祉課 石丸 明子氏</p> <p>③ 子ども家庭支援センター 主代 淑美氏</p> <p>④ 社会福祉協議会 北邑 和弘氏</p> <p>⑤ 手をつなぐ親の会 阿部 由美氏</p>	<p>相談支援専門員 (1年～3年目の人が中心)</p>	<p>相談支援事業者 5/7事業所(6人)</p>
7	19	<p>スキルアップ研修(勉強会)</p> <p>「単身生活をしている軽度知的障害者への自立(自律)生活のサポート」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例報告を受けての意見交換 ・相談支援専門員の役割の理解及び相談支援に対する意識や情報の共有化 	<p>地域生活支援センター ひゅーまん地域生活相談室エール YELL 松浦 明子氏</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援専門員 ・障害福祉課 	<p>相談支援事業者 7/7事業所(12人)</p> <p>行政(1人)</p>
10	5	<p>スキルアップ研修Ⅱ(介護保険)</p> <p>「8050問題」～地域包括ケアシステムを考える～</p> <p>① 講師講演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害をもつ人と家族の実情 ・精神の障害と家族支援 ・身体, 知的, 精神障害者と高齢化 ・8050問題, 老障介護 ・家族みんなが幸せに暮らすために <p>② 質疑応答</p>	<p>なでしこメンタルクリニック院長 白石 弘巳医師</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業者 ・国分寺市ケアマネジャー連絡会関係者 ・行政機関(障害福祉課・高齢福祉課) 	<p>相談支援事業者 4/7事業所(10人)</p> <p>社会福祉協議会(1人)</p> <p>行政(障害 2人)</p> <p>高齢関係者(72人)</p>
12	6	<p>支援者向け研修</p> <p>虐待防止と意思決定支援</p> <p>① 講師講演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間の多様性と可能性を支える仕事の意味 ・障害者虐待防止法の概要 ・虐待が起こる要因 ・意思決定支援の意味と方法 <p>② 質疑応答</p>	<p>東京アドヴォカシー法律事務所 池原 毅和弁護士</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障害福祉分野 ・高齢福祉分野 ・児童福祉分野 ・教育分野 ・地域福祉分野 	<p>相談支援事業者 6/7事業所(9人)</p> <p>障害児通所事業所他(38人)</p> <p>地域包括支援センター他(7人)</p> <p>学童保育所(1人)</p> <p>民生委員他(6人)</p>

2	26	<p>スキルアップ研修Ⅲ（児童） 発達に気がかりのある子どもと家族の実際～でこぼこ3人組の子育てから～</p> <p>① つながるワーク（チームビルディング）</p> <p>② 講師講演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族や支援者の役割と課題 ・関わり方の原則 ・一人ひとりを尊重した丁寧であきらめない関わり ・支援者が持つべき視点 	<p>ベル相談室 臨床心理士 角田 みすゞ氏 （臨床心理士であり、 帰国子女・超未熟児・ 自閉症の3人の母）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障害福祉分野 ・児童福祉分野 ・地域福祉分野 	<p>相談支援事業者 4/7事業所（5人） 児童発達支援事業所他 （7人） 保育園・学童（7人） 学習支援事業担当 （1人）</p>
3	22	<p>スキルアップ研修（勉強会） 同居世帯における精神疾患のある発達障害者の自立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例報告を受けて意見交換 ・講師を交えての討議 ・感想共有、講師総評 	<p>なでしこメンタルクリニック院長 白石 弘巳医師</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援専門員 ・障害福祉課 	<p>相談支援事業者 6/8事業所（8人） 障害福祉課（1人）</p>

⑥ 権利擁護関係連絡会等への出席

月	日	研修名	主催
5	25	第1回権利擁護関係機関連絡会	権利擁護センターこくぶんじ
6	29	国分寺市高齢者/障害者虐待防止ネットワーク実務者会議	国分寺市高齢者/障害者虐待防止ネットワーク
7	10	虐待防止に向けた法令遵守・虐待防止・人権擁護の学び	社会福祉法人万葉の里 基幹相談支援センター
8	24	第2回権利擁護関係機関連絡会	社会福祉法人 国分寺市社会福祉協議会
9	20	障害福祉における権利擁護議	東京都障害者通所活動施設職員研修会
10	13	知っておきたい成年後見制度	権利擁護センターこくぶんじ
11	5	虐待防止研修	社会福祉法人万葉の里
11	8	知っておきたい成年後見制度～障害のある人の親なきあと～	NPO法人 成年後見ウィル
11	30	第3回権利擁護関係機関連絡会	社会福祉法人 国分寺市社会福祉協議会

2	1	虐待防止研修	社会福祉法人万葉の里
2	22	第4回権利擁護関係機関連絡会	社会福祉法人 国分寺市社会福祉協議会
3	17	地域で支える成年後見制度 ～元気なうちに考えよう～	権利擁護センターこくぶんじ